

平成29年度 上田市立北小学校 学校自己評価シート 後期まとめ

学校教育目標	総合評価
「花とみどりと笑顔の学校」 ～あふれるあいさつ ひびきあう心～ 「社会において自立的に生きる力」の育成 10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造	職員は、将来を見据えた本校学校目標を主体的に捉え、「学校目標→学年目標→学級目標」と筋を通して、その達成に努力し、成果も上がってきている。今後も、子ども達の将来あるべき姿を職員で共有し、そこを土台・基本とした指導に心掛けたい。
今年度の重点目標	成果と課題
よくふれあい…「友だちいっぱい」 多様な大人の一人としての教師 教師は、子どもたちが人に対する関心や愛着を深め、信頼感を構築していくために努力・工夫している	教師自らが、「身近な大人」としての信頼感を構築するべく努力した。更に、「人に対する関心や愛着を深める姿」について学び合いたい。
よく学び …「日記を書こう」 学び続ける教師 教師は、児童が学び方の基本、自ら学ぶ基礎力を身に付けるべく、努力・工夫している	日記（書くこと）を通し、「基礎力」の充実を図ってきた。更に、具体的に願う姿を明確にし、評価の視点を共通のものにしていく必要がある。
よく遊ぶ …「遊びつくそう」 子どもと共に遊ぶ教師 教師は、「遊び」の意味を理解し、「遊び」を通して生きる力を育てるべく、努力、工夫している	「ハッピータイム」以外にも、子どもと共に「遊び」を創り出そうと努力している。更に、「遊びつくす」姿について共通理解し、指導にあたる。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価 (A, B, C)
学校教育	よくふれあい	「多様な他者とかかわり合う場」の確保	学校において、地域の様々な大人と関わり合う場を確保し、地域のもてる力が有効活用しようとしている。	学習ボランティアやクラブ活動等、支援していただける体制があり、子ども達の関わりが広がっている。更に、多様な大人とふれあえる場づくり、放課後学習の充実等に取り組んでいきたい	A
	よく学び	「教師が子どもと向き合う時間」の確保	朝の学級活動の時間の工夫により、教師が子どもと向かい合い、子どものやる気を高める時間となっている。	ゆとりある朝の学級活動の時間を活用し、集団遊びの時間、児童の企画による集会活動、内容を工夫した「朝の会」等を行うことができた。必要に迫られての「流用」もあり、更なる意図的、計画的な運用が必要。	B
		「学年研究体制による授業改善」	指導主事等を専任講師とし、2回授業公開をすることを通して、授業改善を図ろうとしている。国語、算数を中心とし、児童の「自ら学ぶ力の強さ（学力）」を向上させようとしている。	授業改善における、個の課題解決に向けての実践研究という流れはよい。更に、実際の児童の姿を通して様々な見方、考え方を学ぶ場も工夫する。児童の意欲を大切に授業展開を工夫することで主体的な取り組みを目指した。更に、客観的な資料（NRT,CRT等）の有効活用が必要となる。	B
		「北小学びのスタンダード」（全学年共通で身につける学び方の基本）の推進	教師の指導がなされ、以下のことができている。 1 発言者以外は静かに聞く。 2 呼ばれたら「はい」と返事をする。 3 話し手に顔と体を向けて話を聞く。 4 話し手は、聞こえる声で終わりまで話す。 5 聴き手は、話し終えるまで聞く。	全てのクラスで、「北小学びのスタンダード」の定着を目指した指導が展開されている。「考え合う、学び合う」授業の重要性を認識し、そのために必要であることを意識して指導し、発達段階に応じて、なぜ必要なのか、どんな良さがあるのかを日常的に伝える努力をするクラスが増えた。学級による格差を減らすために、本年度のように、実際の指導場面を通じた共通理解の場を設けていくことが必要。	B
		書く活動の充実	教師は、日記指導を通し、児童が自ら学ぶ基礎力（思考力、表現力）を育てようとして指導している。	丁寧に指導にあたることで、主体的に思考、表現しようとする児童の姿が多くなった。指導の観点については、さらに研究が必要。	B
		よく遊ぶ	自主的活動の時間の確保	昼休み等の時間が、遊びや、児童の自主的な活動のための時間となるよう指導している。	「自由な時間」として、多くの児童が楽しみをもって過ごす時間の確保を心掛けた。今後、自主的な活動に困難を感じず児童への支援も必要。
	「ハッピータイム」（外遊びの日）等の充実	教師は、子どもと共に遊ぶ等、子どもが外遊びに進んで取り組むような働きかけをしている。	教師や友だちと遊べる「ハッピータイム」を楽しみとする児童は多い。外遊びに関わる「個」への支援のあり方については更に共通理解を深めたい。	B	
学校運営	保護者・地域との連携	情報の発信	学校（学年、学級）は、教育方針、取組やその成果、連絡など、必要な情報を発信している。	児童の具体的な姿を通じた、担任の意図、願いの発信は、保護者の「安心」につながっている。内容、時期など更に工夫したい。	A
		PTA やボランティアとの連携	学校は、PTA やボランティアとの連携を十分行っている。	「連携すること」の重要性を理解し、そのための方策（メール配信、「応援団総会」等）を工夫した。連携できていることの発信にも心掛けたい。	B
		家庭学習の充実	学校は、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。	家庭学習への適切な評価、家庭への理解・協力を求めることに努力した。今後、個人差の解消、自主的な学習への取り組みについて進めたい。	B